

『グローバル・OPEN・顧客中心主義をテーマに O-DA(安全・高信頼性検証標準)で

Dependable に Assurance を行うケースの研究・研修会のご案内』

-開催日:2018年10月4日(THU)~10月6日(SAT)

-主催:グローバル情報社会研究所株式会社(ReGIS Inc.)

-共催:The Open Group

<安全・高信頼性検証標準と必要性>

サービス運用開始後のシステム障害は、社会やサービス顧客に深刻な影響を与えるだけでなく、サービスを提供する企業のビジネス機会や経営環境に重大な影響を及ぼします。最適なサービスの継続提供、システム停止が起きた場合の損害の最小化、サービスの早期復旧、同種の要因による再発防止、説明責任と経営上の結果責任が求められます。今日のシステムはクラウド、IoT、ビッグデータ、ワイヤレス、AI、SNS 等ますます複雑で多岐にわたり、安全性やセキュリティに対する要求も高くなっています。このためシステム障害が起きた時の社会的およびビジネス上の Dependability(信頼性)の維持が難しくなっており、より高信頼のサービスとそれを支えるシステムの開発・運用が必須となっています。

オープン・グループ(The Open Group)が 2013 年にリリースした「安全・高信頼性検証標準 The Open Dependability through Assuredness™ Standard (O-DA)」は日本発の国際標準で、問題解決にあたる意思決定者がリスク・マネジメントするためのオープンな標準です。

<研究・研修会の趣旨>

10 年前から、TOGAF/ArchiMate/IT4IT に関心を寄せてアーキテクトを教育されている各社(JAXA, JR システム、SCSK, NTT, ミロク情報サービス、日産自動車、最近では日本タタ・コンサルタンシー・サービス、セゾン情報システムズ、デンソークリエイト、東京ガス、大阪ガス、富士通など)と手を携えアーキテクトを育ててまいりましたが、EA 標準 TOGAF/設計の見える化標準 ArchiMate の認証者が 1,000 名を超え、アーキテクチャ・ケイパビリティをベースにしたアシュアランス推進の土壌が出来上がってきました。

研究・研修会では、O-DA について学び、ご参加の皆さまそれぞれに実際にサービス提供を実践しているケースをお持ちいただいて、O-DA を用いた品質保証(Assurance)のケース・スタディを行い、品質保証の変革(高信頼システムの実現)を体験していただきます。

日本の IT 利用企業では、全ての IT 予算の 50%以上をテストだけに使いながら新規アプリケーション開発には 15%+しか使っていない企業が多いと言われています。TOGAF ベースで設計し、IT ベンダーまたは社内 IT 部門に受け渡しをする前に O-DA でアシュアランスすることでけじめをつけられれば、OPEN BID も充分で、コスト効果が出てくるだけではなく、設計側のオーナーシップにもけじめがつき、ベンダー側もオープン・コンペティションでプライスと品質で戦えることになります。TOGAF ベースの O-DA を行えば 2 年以内に年間 IT 予算の 25%はセービングできると考えられ、その残りの 25%で新規アプリ開発に充分手が回せると考えられます。

TOGAF ベースの O-DA 推進にはマネジメントがオープン標準化、グローバル標準化、顧客中心主義化にどうコミットするかが大きなドライバーになります。トップマネジメントのサポートが得られれば鬼に金棒です。まずは CIO のサポートを得て、勉強してからトップにチャレンジする事も選択肢です。是非、トップ・アーキテクト 2 名(TOGAF 認証必須・ArchiMate 認証推薦)を O-DA 担当のアーキテクトとしてアサインされ、研究・研修会に派遣ください。

オープン・グループ 日本代表・会長
グローバル情報社会研究所株式会社 代表取締役社長 藤枝 純教